

2018年4月19日

資料室だより 108

公会 羅典聖歌集 長崎天主堂 発行

大正5年に長崎で発行されているラテン語のカトリック聖歌集を長崎在住の古書店の方が落札され、こちらにそのコピーを送っていただきました。原本自体は長崎の博物館にいずれ保存される予定だそうです。

ラテン語聖歌集といってもラテン語文字はなく、四角い音符の下にカタカナ表記があるだけのものです。歌詞だけの聖歌集から音符の下にラテン語とカタカナ読みがついたものの中間にあたる過度的な形態の聖歌集といえます。「羅典聖歌集」という名で発行されているカトリック聖歌集は様々な版が残っておりまして幸いにもグレゴリオの家もかなり古いものを所蔵しています。しかし、このたびコピーで入手できたこの聖歌集は古さという点と大浦天主堂（この当時は長崎天主堂）で刊行されたということで日本のキリスト教史においては特別な意味を持ちます。

まず、大祝日のカテゴリーとして、「ご降誕」があります。その次に「日本26聖人殉教者記念」があり、そのあと「ご復活」です。他の聖歌集は降誕の次に復活があり、26聖人の日（2月5日）は大祝日の扱いではありません。これは長崎ならではのローカルな配列で、26聖人を記念して建てられた大浦天主堂ならではのことでしょう。

簡易製本して閲覧できるようにしましたが、資料室ではなく音楽室Cの書架に他の歴史的聖歌本と一緒に保管しますので、閲覧なさりたい方は杉本までお声かけください。

聖グレゴリオの家が、宗教音楽研究所であり、日本に立地しているということを考え合わせると、日本で出版され、日本の教会で用いられてきた聖歌・讃美歌集の楽譜の収集と保存を積極的に行うことは重要な努めだと思われます。すでにフェリス女学院音楽科研究図書室がこの方面の収集と目録化をしておりますので、これを活用して当館の所蔵チェックをし、フェリス未所蔵リストも作成してあります。ちなみにフェリスの目録は「日本の教会音楽（讃美歌・聖歌）関係資料目録」というタイトルで資料室においてあります。大きな年表、索引も付いていますので何か必要なときにはご利用ください。

（杉本ゆり 記）